

讚美歌を聴きながら（合縁奇縁）

この度、役場職員同士の結婚披露宴があり、明和町長として出席をさせていただきました。役場の職員にしては、美男・美女で、どこかのスター同士の結婚式かと思わせるくらいに趣のある式でした。

花嫁は「元町長秘書」で美人ですが、花婿もジャニーズ系の美男でして、大変絵になりました。



実はこの2人の出会いは、私の「一言」から始まったものです。思い返せば、平成27年4月、私が選挙で初当選した夜のこと。確か、午後10時をまわっていたと思います。私の選挙事務所に、当時の総務課長と秘書（今回の花嫁）の2人が現れ、

「明日から登庁できますか？」という話を切り出されました。役場の事務職員が、選挙事務所に顔を出すことは、通常まずありません。2人は、緊張した面持ちで、上司が誰もいないことや混乱を收拾したい旨を、真剣に訴えてきました。この2人に促され、登庁を早め町長職に就かせていただき、そこから1年間サポートしてくれたのが、今回の花嫁です。

前町長の秘書として3年仕え、私の就任1年目を見事に支えてくれたことに、感謝の意を込めて、彼女に「将来行ってみたい課はありますか？」と何気なく尋ねました。きっと、「町長の側が良いです」と言ってくれるだろうとの予想に反し、彼女からは「福祉関係で町の役に立ちたいです」と答えが返って来ました。そして、平成28年4月の人事異動で、彼女は「介護福祉課」に異動しました。なんと、異動した先での隣の席が、今回の新郎の席で、めでたく縁が繋がったわけです。

おもしろいことに、あとで彼女に話しを聞くと、彼女が希望したのは「介護福祉課」ではなく、当時（機構改革前）の「住民福祉課」の戸籍係(窓口)だったそうです。異動の内示後、本人が言った言葉ですから、間違いありません。

役場の人事を任されている副町長は、彼女なら適任だろうとその志を汲み「福祉課」に異動させたとのこと。この勘違いが、まさに合縁奇縁の出会いを生んだのでした。この異動の約半年後、新郎新婦は交際を始めたそうです。それまでは「お互いに意識をしていなかった」と言いますから、縁とは不思議なものです。

「縁」というものはどこにあるのか分かりませんが、彼ら2人のように、出会いを大切にすることで良縁に結びついていくのかもしれない。



人という字は、1人の人を他の人が支えて出来ています。互いに支え合う伴侶を見つけて初めて人になれる、そんな哲学を坂本金八先生も言われております。今は、高齢社会と言われ、出生率が減少し、平均寿命が伸びたため、社会

全体のバランスが大きく崩れております。若い人々が結婚をして、子供をもうけ、人口を増やさなければ、その地域は今後の持続ができません。人口がどんどん減っていき、最後は町長1人しかいないという笑い話になってしまいます。

明和町は年間約130人のかたが亡くなり、80人の命が誕生します。自然減が50人です。それを企業誘致などの転入を増やし、社会増で補っております。できたら「命の誕生」をもっともっと増やしていただければと思います。そのために、私どもも子育てしやすいまちづくりを引き続き進めていきたいと考えています。また、町の事業としても皆さまに良い出会いのチャ

ンスがあるよう、今後どしどし企画をもうけていきますので、ぜひご参加いただき、「合縁奇縁」を実感していただければ幸いです。

平成30年1月29日

明和町長 富塚もとすけ